

富山経協



サクラ「ミヤビ」(解説・23ページ)

CONTENTS

- 2 年度初めのご挨拶
- 3 2019年度 事業方針
- 4 2019年度 年間事業活動計画表
- 6 2019年度 委員会活動紹介
- 9 労働指標
- 10 調査報告
2019年4月新卒者等の採用に関する調査
- 12 Top Interview
太平 石崎直樹社長
- 14 事業活動報告
- 14 連合との懇談会
- 15 理事会、幹事会
- 16 拡大政策会議
- 17 委員会活動
- 18 講座・セミナー
- 20 参加者NOTES
- 22 新会員の紹介
- 22 会員の動き
- 23 見学会
- 24 おしらせ・事業予定



年度初めのご挨拶

一般社団法人 富山県経営者協会
会 長

金岡 克己

昨年、世界的に注目を集めた日本人といえば、MLBの大谷翔平選手24歳でしょう。大谷選手は、アメリカの野球の神様ベブルースと比較される存在です。同一シーズンに、投手として50イニング以上を投げ、打者として15本塁打以上を打ったのは、MLB史上2人目、ベブルース以来99年ぶりの快挙です。その活躍により、圧倒的得票で新人王を獲得、新たに二刀流を目指す選手、球団が増えています。

最近のMLBの放送を見て、何か気付くことはありませんか。ビッグデータを用いた統計値の表示、解説が大幅に増えています。大谷選手の本拠地デビューから3試合連続ホームラン1試合2打点以上は、アメリカンリーグ初ということがすぐに報道されました。いまだに精神論が幅を利かす日本のスポーツ界とは、情報の取り扱いに、天と地ほどの差があります。

ここ3ヵ月、国会で追及されているのが厚生労働省の毎月勤労統計問題です。日本全体の賃金、労働時間、雇用状況を知るための重要な基礎データであり、基幹統計の一つとして、GDPの算出や失業保険の給付金算定などに用いられています。

この調査が、2004年から法律に違反する状態で行われていたことが判明しました。しかも2018年度データのみ補正を加え、大幅な賃金上昇があったかのような体裁なのです。10月の消費税増税の根拠としてきた過去の賃金の伸びが、実際はマイナスの可能性が出てくるなど、政権への付度で統計が操作されたのではないかと批判を浴びています。

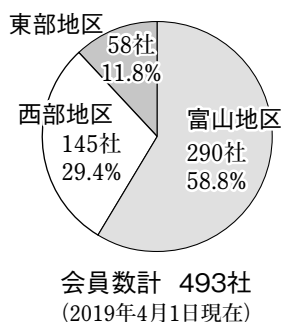
見逃せないことは、国の政策を左右する重要な統計がなおざりにされている事実です。統計に関する人や予算は減らされるばかりと報道されています。このことは、日本人一般の、事実を軽視し、場の空気に迎合する態度の象徴ではないでしょうか。

ビッグデータを有効に活用する時代を迎えた今日、事実や統計に立脚するアメリカと日本との格差はさらに開くのではないかと危惧しています。

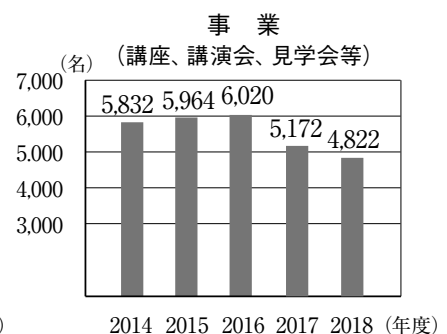
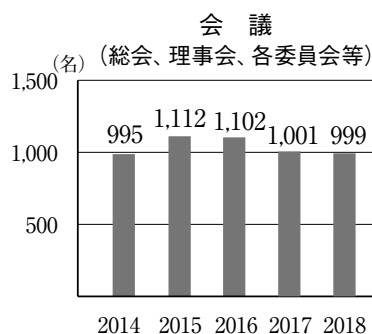
本年度も、経営者協会に対する引き続きのご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

協会の現況

◆ 地域別会員数 ◆



◆ 参加者数推移 ◆



2019年度事業方針

基本理念

富山経協は、創造的で活力のある企業経営の実現をめざし、地域社会の発展に貢献します。

2019年度事業方針

世界経済は、緩やかな成長を続けている。しかし、米中貿易摩擦の影響や米国の利上げに伴う国際金融市場の動向、英国のEU離脱をはじめとする欧州の不安定な政治情勢、地政学的なリスクなどにより、先行き不透明感が強まっている。

一方、国内においては急速に進行している人口減少への対応、大都市へ人口集中、高齢化が現実のものとなり、社会全体に関わる重要な課題が山積している状況である。

このような時にこそ、富山県経営者協会が長年「企業と人」にフォーカスしてきた事業活動が、ますます重要になっており、富山で事業を営む経営者で構成する民間経済団体として、あるべき姿を自覚し、新たな行動をすることにより、存在価値を高めていく。そのために多様化する会員ニーズに対応した経営課題の研究と広報、労働生産性の向上、会員企業で働くすべての社員の能力向上を目的とする研修・セミナー等、事業活動を進め会員サービスの向上につなげていく。

1. 企業経営に必要とするタイムリーな情報の収集と提供

- (1) 経営課題に関する調査研究と情報発信を行う。
- (2) 会員に必要な情報収集と発信を行う。
- (3) 人事労務、環境経営、人材育成に関する相談活動の充実を図る。

2. 「企業と人」にフォーカスした委員会活動の推進

- (1) 委員会の役割・目的を明確にし、タイムリーな研究・情報発信を行う。
- (2) あらゆる業種・階層に応じた人材育成の研修・セミナーを企画・実施する。
- (3) 『労働力人口減少時代における生産性向上』をテーマに研究・情報発信を行う。

3. 事業活動とサービスの幅を広げた会員相互の交流機会の支援

- (1) 総会、幹事会、地区懇談会を開催する。
- (2) 会員企業の見学会とビジネス交流の機会を提供・支援する。
- (3) 多様な交流機会を提供する。

4. 会員ニーズに沿った事業活動とサービスの提供

- (1) 会員訪問活動を強化し、要望やニーズを踏まえた事業活動を実施する。
- (2) 研修・セミナーは実施後評価を踏まえて、スクラップ&ビルドを行う。
- (3) 「働き方改革」、「ダイバーシティ経営」等、先進的事例のセミナーを開催する。

5. 民間経済団体として機能発揮と地域社会発展への貢献

- (1) 会員状況把握、政策提言・要望活動を実施する。
- (2) 行政との密な連携と相互事業を実施する。
- (3) 経団連・他団体との密な情報連携を図る。

2019年度 年間事業

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
会 議		理 事 会 (22日)	定 時 総 会 (21日) 理 事 会 (21日)		会 長 ・ 副 会 長 会 議 (5日) 北 陸 三 県 ・ 長 野 県 経 営 者 協 会 役 員 懇 談 会 (12日・13日)		理 事 会 (20日)	
事 業			講 演 会 (21日)		西 部 地 区 会 員 懇 談 会 (5日)		富 山 地 区 会 員 懇 談 会 (20日)	
調 査		新 入 社 員 意 識 調 査		夏 季 賞 与 調 査 初 任 給 調 査	経 営 課 題 調 査		新 入 社 員 意 識 調 査 (フ ォ ロ ー ア ッ プ 編)	
広 報		富 山 経 協 4 月 号		富 山 経 協 6 月 号 講 演 録 「 不 易 流 行 」		富 山 経 協 8 月 号		
委 員 会	総務交流	会 議		定 例 委 員 会		定 例 委 員 会		
		活 動					富 山 経 協 ゴ ル フ コ ン ペ	
	人事労務	会 議	幹 事 会	定 例 委 員 会		定 例 委 員 会		
		活 動		企 業 見 学 会	労 働 法 関 連 法 制 研 究 部 会	メンタルヘルス部会	労 働 法 関 連 法 制 研 究 部 会	
	教育	会 議		定 例 委 員 会		定 例 委 員 会		
		活 動	研 究 部 会	研 究 部 会	教 育 制 度 見 学 会	研 究 部 会	勉 強 会	研 究 部 会
	品質管理	会 議	幹 事 会			定 例 委 員 会		定 例 委 員 会
		活 動				企 業 見 学 会		
	環境	会 議		定 例 委 員 会			定 例 委 員 会	
		活 動		県 と の 情 報 交 換	環 境 保 全 活 動	県 外 企 業 見 学 会	講 演 会	
経 営 企 画	会 議		定 例 委 員 会			定 例 委 員 会		
	活 動		経 営 課 題 調 査 テ マ 設 定			セ ミ ナ ー	経 営 課 題 調 査 テ マ 設 定	
講 座	階層別研修	新 入 社 員 合 同 研 修 (4日)	職 場 リ ー ダ ー 基 本 コ ー ス <2日 間・2回> (A 14日・15日) (B 16日・17日)		職 場 リ ー ダ ー 入 門 コ ー ス <2日 間・2回> (A 9日・10日) (B 11日・12日) 部 課 長 実 践 講 座 <2泊3日>(18日~20日)		管 理 職 マ ネ ジ ム ン ト 研 修 <12日 間> (9月9日~2020年5月) 新 入 社 員 フ ォ ロ ー ア ッ プ 研 修 <2回> (A 25日) (B 26日)	
	共 通 (目 的 別)		仕 事 の 基 本 「 報 連 相 」 セ ミ ナ ー (28日)	好 印 象 を 与 え る コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 力 向 上 セ ミ ナ ー (4日) チ ー ム 力 向 上 セ ミ ナ ー <2日 間> (25日・26日)	職 場 の パ フ ォ ー マ ン ス を あ げ る ハ ラ ス メ ン ト 防 止 セ ミ ナ ー (23日)	な ぜ な ぜ 分 析 活 用 セ ミ ナ ー (6日) 女 性 社 員 活 躍 セ ミ ナ ー (21日)	ISO14001内 部 監 査 員 養 成 講 座 <2日 間> (3日・4日) ISO9001内 部 監 査 員 養 成 講 座 <2日 間> (11日・12日)	
	労 務 管 理	人 事 ・ 労 務 管 理 セ ミ ナ ー 第 1 回 (19日)		労 働 法 実 務 講 座 第 1 回 (13日)	人 事 ・ 労 務 管 理 セ ミ ナ ー 第 2 回 (24日)		労 働 法 実 務 講 座 第 2 回 (18日)	
	品 質 管 理	品 質 管 理 入 門 講 座 【 基 礎 編 】 <4日 間> (4月10日~5月9日)		実 践 し な が ら 学 ぶ 統 計 的 手 法 活 用 講 座 <15日 間> (5月23日~11月28日)				
		生 産 管 理			も の づ く り と 現 場 改 善 実 践 セ ミ ナ ー <1泊2日> (11日~12日) I E 手 法 に よ る 生 産 現 場 の 改 善 セ ミ ナ ー (25日)			
	購 買 管 理							
	営 業	営 業 力 基 礎 セ ミ ナ ー <2日 間>(23日・24日)						
	経 理					経 理 基 礎 ・ 管 理 会 計 基 礎 講 座 (23日)		

活動計画表

10月	11月	12月	2020年1月	2月	3月		
	会長・副会長会議 (8日)				理事会 幹事会 (6日) (6日)	会議	
	東部地区会員懇談会 (8日)		経済団体新春互礼会 (6日)		連合富山との懇談会 (6日)	事業	
	冬季賞与調査 経営課題調査 新春アンケート			2019年度調査報告書	新卒者採用調査 春季賃金改定状況調査	調査	
富山経協10月号		富山経協12月号	富山経協新春号	富山経協2月号		広報	
定例委員会		定例委員会				会議	委員 会
企業見学研修会	会員交流ボウリング大会	婚活イベント				活動	
	幹事会	定例委員会		定例委員会		会議	
メンタルヘルス部会	労働法関連法制 研究部会		メンタルヘルス部会	労働法関連法制 研究部会		活動	
	幹事会	定例委員会		定例委員会		会議	
	研究部会	勉強会		教育制度見学会		活動	
	幹事会	定例委員会		定例委員会		会議	
県外企業見学研修会				企業見学会		活動	
	幹事会	定例委員会				会議	
県内企業見学会	環境保全活動			県内企業見学会		活動	
	定例委員会			定例委員会		会議	
						活動	
職場リーダー実践コース <2日間・2回> (A 1日・2日) (B 3日・4日) 若手社員実践コース (29日)	管理職基礎コース <2日間>(6日・7日)			職場リーダー実践コース <2日間>(25日・26日)	若手社員ステップ アップコース(10日)	階層別 研修	
ヒューマンエラー 未然防止セミナー (11日) 改善力養成セミナー 【基礎編】(10日) 会議の生産性を向上する ビジネス・ファシリテーター 養成講座(24日)	ヒューマンエラー 対策講座【実践編】 <2日間>(12日・13日) 働き方改革を推進する 業務仕組み化セミナー (21日)		CS顧客満足基礎 セミナー(21日)		改善レベルアップ セミナー【応用編】 (12日)	共通 (目的別)	
	労働法実務講座 第3回(20日)			春季労使交渉セミナー 労働法実務講座 第4回(19日)		労務 管理	
労務管理実務講座<5日間> (10月9日~11月5日)							
	変化点管理の考え方 進め方セミナー(26日)		品質管理入門講座【実践編】<4日間> (1月16日~2月6日)			品質 管理	
ものづくり女性社員 のための改善力向上 セミナー(30日)		5Sと目で見える管理 実践セミナー(12日)				生産 管理	
				購買管理実践 セミナー(20日)		購買 管理	
						営業	
						経理	

2019年度 委員会活動紹介

総務交流委員会

委員長 武内 繁和

(武内プレス工業株式会社
代表取締役社長)



当委員会では、多様化する会員ニーズに対応した共通の経営課題に関する情報交換を行い、人脈構築の場につなげるとともに、行政、他団体との連携を深めるという方針に基づき、各種調査、広報、会員交流事業の開催等を行っております。

企業経営に関わる定期的な調査活動はもとより、会員相互の親睦を深める毎年恒例のゴルフコンペ、ボウリング大会の他、婚活イベント、企業見学研修会など、ますます多様化する会員の皆様のニーズにお応えすべく、異業種間でのネットワークづくりや相互交流の場を提供できるよう、タイムリーな活動を展開していきたいと考えております。

今年度も当委員会主催の行事に多数参加いただきますよう、引き続き会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

【活動概要】

<定例委員会>

委員相互の情報交換・経験交流の場として定期的に開催しており、調査活動におけるタイムリーな経営課題テーマによる調査内容や会員交流事業の活性化などについて審議を行っております。

<調査活動>

「調査活動」は、総務交流委員会が主体となって実施しております。毎年、賃金改定、初任給、賞与、新卒採用等に関する調査や、その時々々の経営課題に関する調査を実施し、調査結果を報道機関に公表するとともに会員の皆様に機関誌やホームページを利用して、有用でタイムリーな情報提供を行っております。

<事業活動>

「会員交流事業」として、9月にゴルフコンペ、11月にボウリング大会を実施いたします。また、婚活支援事業を12月に実施する予定です。他委員会との合同開催も考慮して企業見学研修会を開催する予定です。

人事・労務政策委員会

委員長 八十島 清吉

(株式会社 タカギセイコー
代表取締役社長)



当委員会の目的は、企業における「人」の活用（雇用、育成、能力発揮、管理）に関わる諸制度・法令を研究し衆知を図るとともに、健全な労使関係を維持し、時代に即した労務政策を研究・提言することにより、会員企業の発展、経営の安定に貢献することにあります。

今年度の事業活動計画については、委員会テーマである『労働力人口減少時代における生産性向上』のもと、企業見学会、講演会やセミナー等を開催し、働き方改革の推進、生産性向上に向けた取り組み事例等の情報発信、共有化を図っていく予定です。

また、各種講座事業および部会活動では、経営者の視点に立った的確な情報提供を行ってまいります。

会員企業の皆様のご参加、ご協力を宜しくお願いいたします。

【活動概要】

<定例委員会>

委員相互の情報交換・経験交流の場として定期的に開催しており、県や労働局等の外部団体との情報・意見交換も行っております。

今年度も「働き方改革」の推進に関する最新情報の確認や情報交換等を実施するとともに、「人事労務に関する取り組み事例の共有」をねらいに企業見学会も実施する予定です。

<研究部会活動>

- ・労働法関連制研究部会（年4回開催）
最新の労働判例について、弁護士を講師に判例解説、意見交換を実施しております。
- ・メンタルヘルス部会（年3回開催）
実務担当者を中心にメンタルヘルスに関する勉強会・意見交換会を実施しております。

<事業活動>

経営者協会で開催する人事・労務に関わる講座・セミナーで取り上げるテーマや内容について審議を行い、①人事・労務管理セミナー、②労働法実務講座、③労務管理実務講座を開催しております。

教育委員会

委員長 松原 隆光
(株式会社ピア
代表取締役)



当委員会の目的は、企業環境の変化に対応して、人材育成や企業内教育の諸課題について幅広く調査研究し、会員企業の社員教育、社員の資質向上の一助とし、会員企業の発展に貢献することです。

近年急激に人手不足が深刻化し、働きやすい職場環境を整備することが企業に求められています。その職場環境を整備維持するためにも労働生産性の更なる向上に取り組む必要があります。そこで、委員会活動としては委員相互の情報・経験交流を目的とした「教育制度見学会」や「勉強会」、「教育研究部会活動」を通じて人材育成に関する幅広い情報交換と研究を行いたいと考えております。また、時宜に適したテーマ・内容でより効果の高い研修を企画実施し、会員企業の皆様の継続的な発展に寄与していきたいと考えております。

皆様のご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

【活動概要】

<定例委員会>

委員相互の情報交換・経験交流の場として6月・8月・12月・2月の年4回開催しております。今年度は8月に「タイムマネジメント研修」を定例委員会と合わせて実施する予定です。さらに、6月と2月には教育制度見学会を開催する予定です。

<教育研究部会活動>

「富山県経営者協会の管理職教育の研究」をテーマに、多くの会員企業が参加でき、満足できる幅広いニーズにあった管理職研修の構築を考え、2020年度からの新しい管理職教育体系を目指します。

<事業活動>

階層別研修を9階層14講座、職能別研修を13講座開催します。特に新設講座として「職場のパフォーマンスをあげるハラスメント防止セミナー」を開催いたします。

品質管理委員会

委員長 谷川 正人
(コーセル株式会社
代表取締役社長)



当委員会の目的は、企業における「顧客・品質第一」を核にした品質経営・品質管理活動の研究や基本となる考え方・科学的な管理手法などを普及・浸透することにより、会員企業の発展に貢献することです。

進展したグローバルな経済協力体制や産業構造の大きな変化に加え、技術革新競争が加速する中、今までの強みを生かしながらも、スピード感ある変化への対応力が求められています。品質管理の在り方が、ますます重要な課題となり、「何を守り、何を变えるべきか」を明確にして、品質経営に取り組む必要があります。

委員会活動としては、「委員相互の情報・経験交流」や「品質管理の基礎や考え方・品質経営の取り組みを内・外から学ぶ活動」に注力し、少しでも自社の現場力・体質強化に役立ててもらいたいと考えています。皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。

【活動概要】

<定例委員会>

各委員が日頃認識している、感じている「品質管理・品質保証の推進担当者の役割は何か、推進における問題・課題（悩み事）は何か、どう対応すべきか」をテーマに、①情報交換、②啓発・啓蒙、③レベルアップを目的としたグループディスカッションを開催します。

また、実際の現場を見て体感し、品質管理活動の意識を高め、委員相互の啓発を図ることをねらいに「委員企業見学会」を開催します。

<事業活動>

日本の品質経営・品質管理の先進企業におけるTQM活動、品質管理活動を学ぶことをねらいに、「県外企業見学研修会」の開催、日本科学技術連盟主催の「品質管理シンポジウム」への委員会内での参加を計画しています。

また、人材育成に関わる講座・セミナーを13講座開催し、委員の講座・セミナー担当制を実施し、委員と講師の情報交換を行い、内容の見直しなど次回の改善につなげていきます。

環境委員会

委員長 尾島 志朗
(北陸電力株式会社
代表取締役副社長)



当委員会の目的は、活動を通じて、持続可能な循環型社会を目指し、かけがえのない地球環境を次世代へ引き継ぐとともに、事業活動による環境負荷を極力削減し、環境保全と安定的経済社会の両立を図ることです。

各企業においても環境保全に向けて日々の事業活動の中で取り組んでおられることと思いますが、企業同士の情報交換等を通して環境保全に取り組むことでより大きな成果へ繋がるものと考えており、当委員会の活動がその一助になれば幸いです。

今年度も、地球温暖化対策等の環境問題に関する情報提供、企業見学会の実施など、皆様の環境対策に役立つ活動を行ってまいりたいと考えております。皆様のご参加、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

【活動概要】

<定例委員会>

委員相互の情報交換・経験交流の場として定期的に計画し、富山県、日本経済団体連合会による環境問題に関する情報提供を行います。

また、企業における環境改善への取組み支援を目的に、県内・県外企業見学研修会の実施および地球環境の保全に少しでも役立てるよう、オイスカ富山県支部の活動にも参加をしていきます。

<事業活動>

環境経営・強化に向けた情報提供として、「ISO14001内部監査員養成講座」を引続き開催するとともに、最新の省エネの手法や経営改善の仕組み等についての「省エネセミナー」を新設いたします。



経営企画・IT委員会

委員長 牧野 賢藏
(株式会社インテック
専務執行役員)



当委員会は、「経営者・経営層を対象とした経営課題に関する研究・調査を行いその成果を情報発信するとともに、経営理念や方針等を社員に浸透させる取り組みや仕掛けについての勉強会等を企画実施すること」と、「企業経営環境の変化に対応し広く企業経営に関する重要課題を議論・意見交換し、その中で浮かび上がった緊急課題は理事会に提言し協会の政策立案につなげる」ことを活動目的としております。

2019年度は「労働力人口減少時代における生産性向上」をテーマに、経営課題についての研究・調査活動、その成果の情報発信や行政・他団体とも連携した施策の実施など、会員企業のみならずの発展に貢献できるように取り組んでまいりますので、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

【活動概要】

<定例委員会>

委員相互の情報交換・経験交流の場として、年4回開催しております。今年度は5月と9月に経営課題調査のテーマ設定、11月に委員会テーマを検討する予定です。

<事業活動>

経営者の役割に特化した経営課題をテーマに研究・調査活動の審議・検討を行い、緊急の課題については理事会に提言し、協会の政策立案につなげております。その上で、総会や地区会員懇談会における講演会等の企画・実施および委員会テーマに向けたセミナーを行っております。

<ITインフラ部会活動>

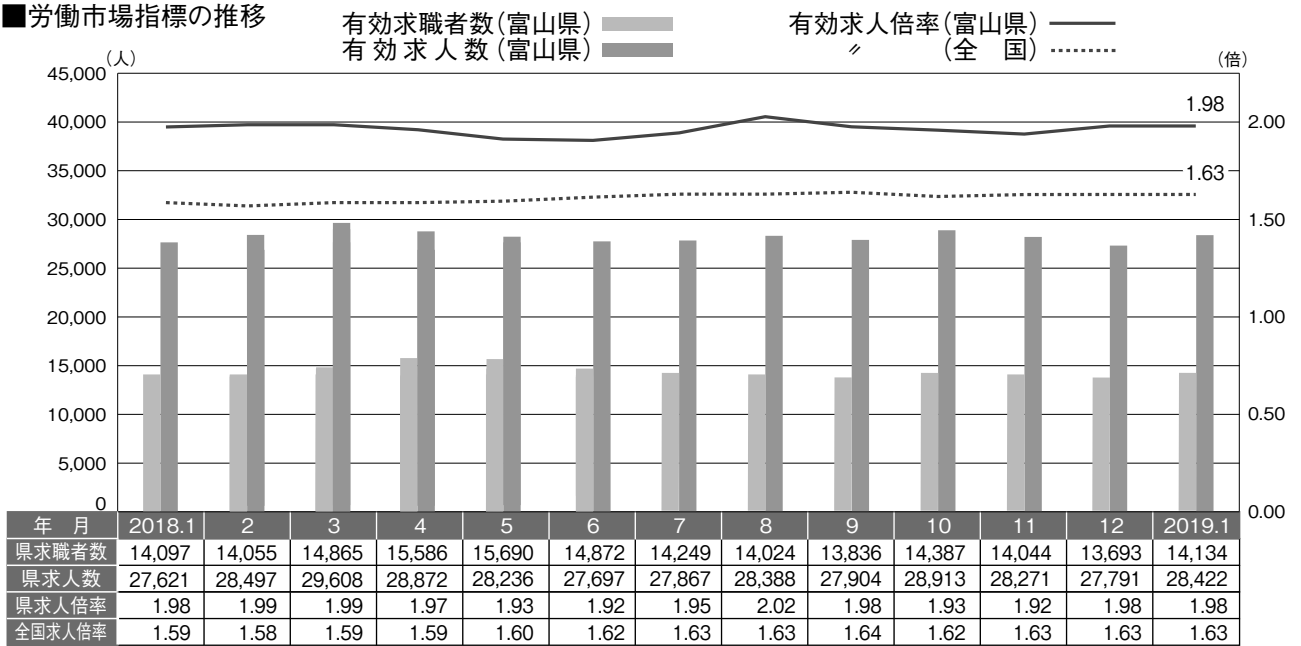
企業の生産性向上に向け、経営の切り口からIT活用について、調査・研究を行っているほか、参加企業間のIT活用や情報セキュリティのあり方等について、情報交換を行っております。

委員会活動についてのお問い合わせは 事務局まで

TEL (076)441-9588
Eメール info@toyama-keikyo.jp

労働指標

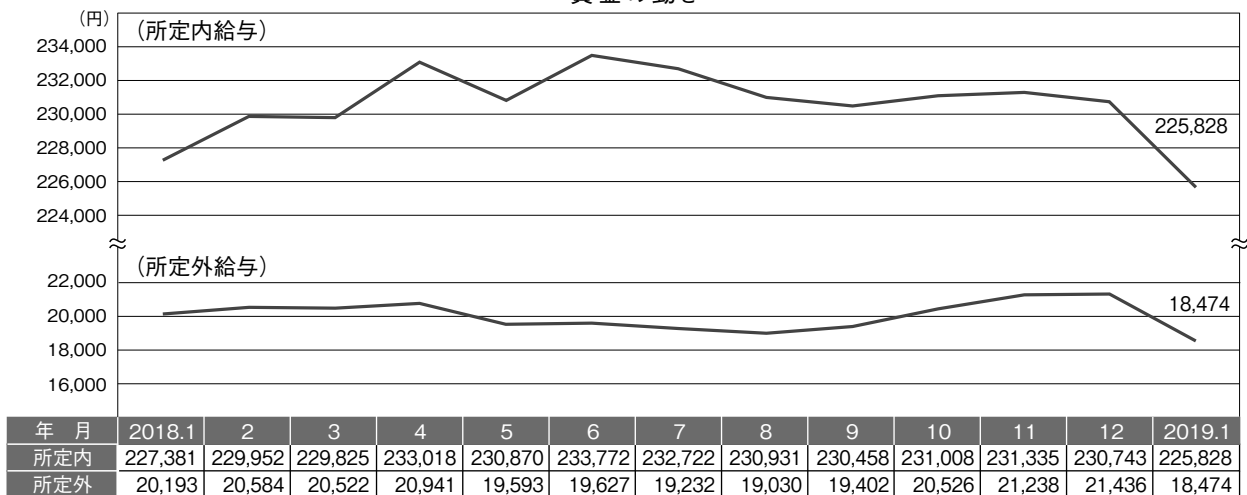
労働市場指標の推移



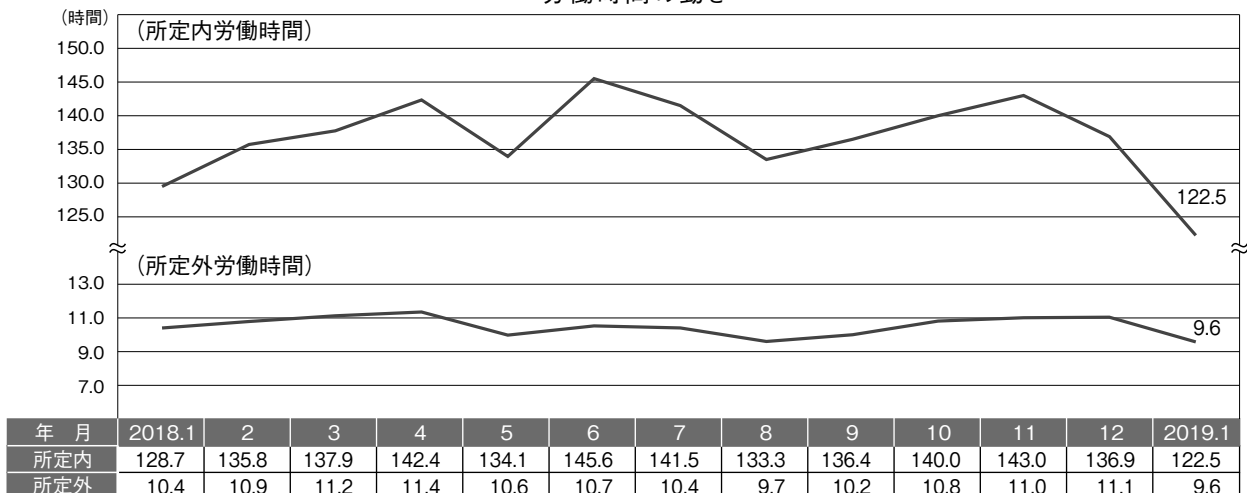
出典：富山労働局「労働市場月報」https://jsite.mhlw.go.jp/toyama-roudoukyoku/jirei_toukei/shokugyou_shoukai/toukei.html

賃金・労働時間の動き(調査産業計、事業所規模：5人以上)

賃金の動き



労働時間の動き



出典：とやま統計ワールド「毎月勤労統計調査 地方調査月報」<http://www.pref.toyama.jp/sections/1015/lib/maikin/index.html>

2019年4月新卒者等の採用に関する調査

採用実績は全体で前年比3.4%減、 製造業は2.7%増、非製造業8.5%減 2020年4月採用は増加の予定

当協会では標記調査結果をまとめた。2019年4月（'19/4）新卒者の採用実績は、全産業では前年比3.4%の減少となった。産業別の内訳は、製造業が2.7%の増加が見られる一方で、非製造業が8.5%の減少となっている。

また、2020年4月（'20/4）の採用予定数は、具体的数値で回答があった企業で見ると、全産業では'19/4の採用実績に対して26.4%の増加予定となっている。産業別の内訳では、製造業が26.5%、非製造業が26.3%の増加予定となっている。

〔調査対象企業等〕

調査対象は、当協会会員企業495社（2月1日現在）。回答は293社からいただいた（回収率59.2%）。内訳は製造業141社、非製造業152社である。この調査は1995年より毎年行っているもので、今回は25回目となる。

1. 新卒者の採用状況

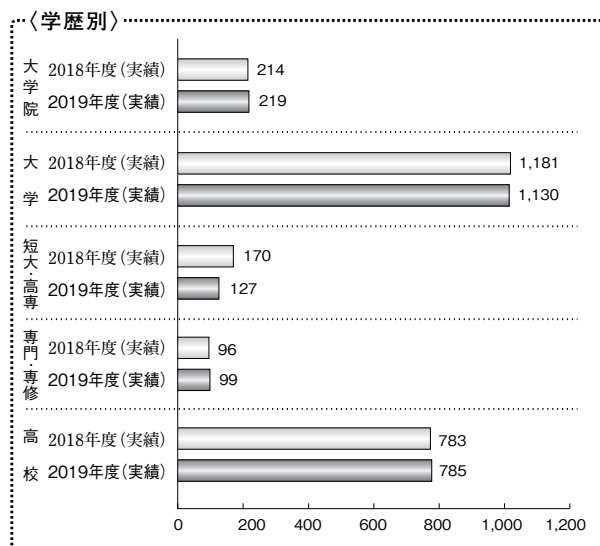
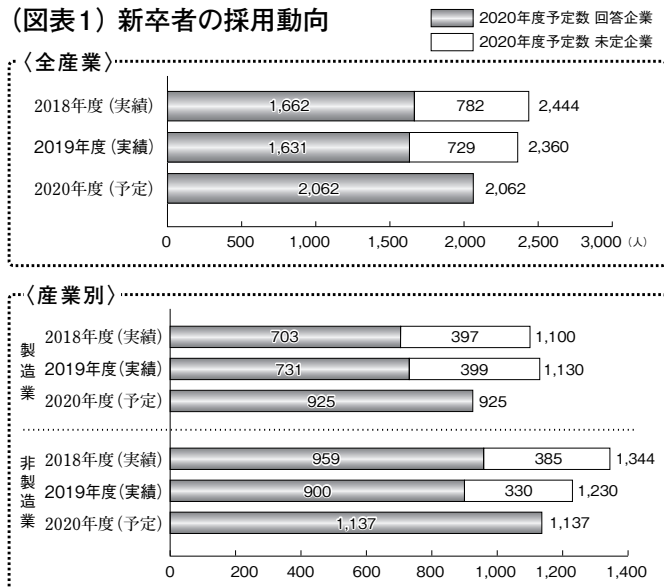
（1）2019年4月採用実績

全産業・全学歴計で見ると、2018年4月（'18/4）の2,444人に対して'19/4は2,360人で84人減少（▲3.4%）となった。

産業別で見ると、製造業では'18/4の1,100人に対して'19/4が1,130人で30人増加（+2.7%）した。一方、非製造業では'18/4の1,344人に対して'19/4が1,230人で114人減少（▲8.5%）と、産業別で異なる結果となった。

次に、学歴別にみると、大学卒が'18/4の1,181人から'19/4の1,130人（51人減、▲4.3%）、短大・高専卒が'18/4の170人から'19/4の127人（43人減、▲25.3%）と減少した。また、大学院卒で5人（214人から219人、+2.3%）、専門・専修卒で3人（96人から99人、+3.1%）、高校卒で2人（783人から785人、+0.3%）と微増であった。（図表1）

（図表1）新卒者の採用動向



(2) 2020年4月採用予定

'20/4の採用予定数について、
 具体的数値で回答があった190社の
 合計は2,062人で、同じ190社の
 '19/4の採用実績1,631人に対し
 て431人増(+26.4%)となっ
 ている。また、'20/4の採用予定者
 数を未定としている企業が103社
 あり '19/4の採用実績は729人
 であった。

産業別でみると、製造業では
 '20/4の採用予定者数について具
 体的数値で回答があった92社の
 合計は925人であり、同じ92社
 の '19/4の採用実績731人に対し
 て194人増(+26.5%)となっ
 ている。また、'20/4の採用予定者
 数を未定としている企業が49社
 あり、 '19/4の採用実績は399人
 であった。

非製造業では '20/4の採用予定
 者数について具体的数値で回答
 があった98社の合計は1,137人
 であり、同じ98社の '19/4の採用実
 績900人に対して237人増(+26.3
 %)となっている。また、'20/4
 の採用予定者数を未定としてい
 る企業が54社あり、 '19/4の採用
 実績は330人であった。(表2)

(表2) 業種別採用状況(実績・予定)

(単位:人)

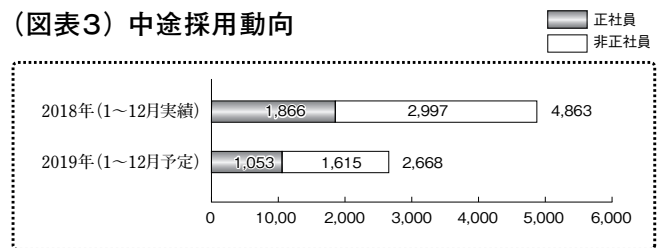
産 業 区 分	2020年度採用予定回答企業				2020年度採用未定企業		
	企業数	20年度 予定	19年度 実績	18年度 実績	企業数	19年度 実績	18年度 実績
食料品・飲料	2	19	9	8	2	6	5
織 維	2	8	9	7	2	0	0
木材・パルプ・紙	4	27	9	14	1	3	0
印 刷	2	15	5	14	3	64	81
化 学	19	186	159	149	13	138	139
プラスチック・ゴム	8	70	55	52	4	9	10
鉄鋼・非鉄金属	5	71	37	30	4	13	8
金属製品	11	59	50	54	7	72	102
汎用・生産機械器具	19	262	230	203	7	35	17
電子・電気機械器具	14	190	148	156	1	34	24
輸送用機械器具	2	9	13	10	4	23	10
その他製造業	4	9	7	6	1	2	1
製造業計	92	925	731	703	49	399	397
建 設	15	133	113	119	8	64	64
電気・ガス	2	141	140	145	1	5	10
情報通信	10	295	277	295	9	35	37
運 輸	11	80	22	25	6	20	24
卸・小売	28	258	159	175	13	42	32
金融・保険	5	75	60	69	4	151	187
宿泊・飲食・生活関連	6	24	15	17	2	1	0
学術・専門・技術サービス	9	42	35	38	3	1	0
教育・医療・福祉	4	26	29	29	5	8	23
サービス・その他非製造業	8	63	50	47	3	3	8
非製造業計	98	1,137	900	959	54	330	385
全 産 業 計	190	2,062	1,631	1,662	103	729	782

2. 中途採用の状況

'18年中(1~12月)に中途採用を行った企業は、
 293社中258社(88.1%)であった。'18年中の採用実
 績は4,863人となっている。

また、中途採用のうち正社員として採用されて
 いるのは1,866人(38.4%)であった。(図表3)

(図表3) 中途採用動向



顧客満足度No.1企業を 目指す 設計・成形・加工まで一貫生産

太平株式会社
代表取締役社長

石崎 直樹 氏



工業用プラスチック製品を製造されています。具体的に教えてください。

一般合成樹脂の電線配電カバーや、FRP（繊維強化プラスチック）のボルトやナット、ローラー、そして金属の代わりとなる高付加価値のスーパーエンブラの製品など、素材も形も様々な製品を作っています。

当社は1975年、アメリカで開発されて間もない炭素繊維にいち早

く着目し、カーボン複合材「タйкаグライト」を開発し、科学技術庁長官表彰を受けました。耐摩耗性、耐熱性に優れた素材で、工作機械や真空ポンプなどの可動部分でも使用可能で、軸受やギアなどに使われています。

FRPローラーは色々な巻芯に使われていますが、近年、液晶パネルのフィルム向けが伸びています。巻くものによって、表面の処理を変えています。

—多品種小ロットに幅広く対応—

貴社の強みは何でしょうか。

設計から成形・加工まで一貫生産しており、他社がやらない多品種小ロットに応えられる点です。100個単位で受注するプラスチック成型メーカーはなかなかないと思います。自動化できない仕事が多く、その分中国など海外への移管が進まなかったともいえます。

一般に、プラスチック成型の工場は無人化が進んでいますが、当社の工場は機械に人が付いており、しかも、隣の機械とは全く違う作業をしているのも特徴です。

リーマンショックの時は厳しかったですが、色々な取引先の仕事をしているお陰で、2割程度の落ち込みで済みました。

多様な製品を扱っているということですが、教育はどのようにされていますか。

OJTが基本で、配属ごとに現場で教えています。特殊な技術が必要とする作業はありませんが、FRPローラーなどは、精密フィルムの巻芯になるので、高い精度が求められます。ISOの規格に沿って作業を標準化しています。作る製品が変わっても仕事の中身は変わりません。

人材の確保はいかがですか。

毎年、新入社員を3～4人採用しています。地元が多く、離職率は低いです。今は忙しいので、定年で退職された人にも声をかけ、活躍してもらっています。

経営の意思疎通はどうされていますか。

取締役会や生産、品質の会議を毎月行っています。会議に時間をかけるのが好きではないので、資料を事前に配り、出席者が目を通

してくるようになっています。

また、毎朝工場を回って現場の社員に声をかけています。まだまだ生産性が上がる余地はあります。今年度の経営方針でも「全員が常に問題意識を持ち、会社の将来に大きな夢を描き、CS No.1企業を目指そう」と打ち立てました。

—時代に合わせ異素材へシフト—

設立から95年経ちますが、どのような変遷だったのでしょうか。

当社の前身は1915（大正4）年、後に衆議院議員となる松村謙三氏と、桜ヶ池の建設など地域振興に尽力した井口仁志氏が立ち上げたMY商会です。地域の方々からの出資を募り、1924年に「太平木工（株）」が設立されました。

当初の資料などは残っておらず詳しくは分かりませんが、木製玩具などを製造していたようです。パリ万博に出品し、高級なおもちゃは東京の百貨店でも販売して皇室へも納め、浩宮様（皇太子徳仁親王）が当社製の木馬で遊んでおられる写真も残っています。ドールハウスを輸出したこともあります。戦時中は戦闘機の燃料タンクや飛行訓練用のグライダーまで木で作っていたようです。

ライフスタイルの西洋化が進んだ高度経済成長期の1961年、玩具製造をやめ、家具の製造を始めま

した。東京に家具専門の販売会社も立ち上げ、百貨店などへ高級家具を納めました。

当初は木製品を手がけていらしたのですね。

昭和に入って始めた製糸業界向けの撚糸ボビン製造が長く当社の柱になっていました。1939年には木に代わる素材としてプラスチックでの製造に着手し、化学繊維が登場すると1954年には樹脂製ボビンの製造を開始しました。

その後、プラスチックの需要が拡大し、樹脂部門の売上も多くなったので、1971年に社名を「太平（株）」に変更しました。

プラスチック事業にうまく移行されました。

樹脂ボビンは当社を含めて国内に2社しか製造しておらず、利益率の高い仕事でしたが、1970年代からニクソンショックとオイルショックを経て、繊維産業の海外移転が進み、ボビンの需要が激減しました。以後、当社でも様々な工業製品の部品を手掛けるようになったのです。

1991年には大阪の取引先からの依頼でFRPの製造を始めました。**木工部門はどうなっていますか。**

2001年に家具製造を完全にやめました。最後は、毎月500万円程の赤字を、プラスチックの利益で埋めていました。整理するのに2

億円の赤字を出し、ボーナスも削減しましたが、人員整理はせず、ボーナスも2年で元に戻しました。**今後の展望は。**

現在、FRP、タイカグライト、スーパーエンブラを3本柱として好調に推移していますが、今後も愚直に地道に、多品種少量の特殊な要望にきめ細やかに応えていきたいと思っています。新しい分野にも挑戦したいと考えています。

座右の銘を教えてください。

「誠」です。お客様にも、従業員にも、社会にも、嘘をつかず、「誠意」をもって当たることをモットーに仕事をしてきました。

もう1つ、本で読んだ「過去と他人は変えられないが、未来と自分は変えられる」というエリック・バーン（精神科医）の言葉が心に残っています。過去を振り返ってばかりいるのではなく、努力して自分を変えて、未来に向かって行くのが好きです。

こういう話をすると、社員から「社長はO型だから楽天的だ」と言われるのですが、社長が暗い顔をしているより、楽天的で明るい方がいいでしょう。

会社概要

太平株式会社

設立：1924(大正13)年1月

所在地：南砺市福光737

資本金：3億円

事業内容：工業用プラスチック製品の製造、CFRP・GFRP等高性能部品の製造

従業員数：80名(2019年3月現在)

売上高：11億600万円(2018年1月期)

事業所：本社工場、高宮工場、大阪営業所

URL：http://www.taihei-toyama.co.jp/

略歴

1946(昭和21)年1月生まれ。68年太平木工(現太平(株))入社、94年総務部長、97年取締役就任。2003年4月から代表取締役社長。現在、富山県年金受給者協会会長、福光経営懇話会会長なども務める。



事業活動報告

連合との懇談会

連合富山と富山県経営者協会との懇談会が3月8日(金)、富山電気ビルで開催された。当協会からは金岡会長はじめ、井上副会長、三鍋副会長、八十島副会長、小林理事、稲垣相談役、人事・労務政策委員会の寺拝副委員長、数川副委員長の8名が、連合富山からは辻会長はじめ10名が出席した。

懇談に先立ち、辻会長から金岡会長へ定期昇給相当分を含めて4%程度の賃上げと労働者の立場に立った働き方の見直しおよび多様な働き手に対する雇用環境の充実など、6項目を盛り込んだ要請書が手渡された。

要請書では、将来にわたって持続可能な社会を実現していくための「人的投資の促進」、そして「底上げ・底支え」「格差是正」を図る取り組みに重点を置き、包摂的な社会の構築で「ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)の実現」と「働くことを軸とする安心社会の実現」に向け、取り組みを進めていくとし、これらの実現のため

- ①賃上げの要求(定期昇給相当分を含め4%程度)
- ②「すべての労働者の立場にたった働き方」の見直し
- ③多様な働き手に対する雇用環境の充実
- ④安心・安全で健康に働くことができる職場づくり
- ⑤公正取引の実現
- ⑥「暮らし方改革」の推進

の6項目について、要請するとしている。

さらに辻会長は、「今年が労使とも働き方改革の推進の方向性の一つにした元年であり、人手不足の環境の中、女性の活躍や高齢者の戦力化などの環境の整備が喫緊の課題である。また、生産性向上のためには、個人のスキルアップが重要であり、人への投資が未来への投資に繋がり、優秀な人材育成は労使とも共通のテーマである」と強調した。

これを受けて、金岡会長は、「経済の持続的成長のためには、金融政策だけでなく、生産性の向上が必要であり、賃上げ要求も理解できるが、消費性向を考慮すると最低賃金を上げる活動が重要である。また、格差是正を謳っているが、格差が起こる原因の本質(各企業の生産性の差)を理解することが必要であり、分配問題だけを議論しても解決にならない



点で疑問がある。

さらに、世界の競争力ランキングの『企業家精神』と『企業変革スピード』の項目で、日本が63か国中最下位であることを引用し、労使とも新しい考え方で富山県全体の生産性向上を目指す必要があるが、AIやIT等の技術革新への認識・対応が、労使ともまだ不足しているように見える。

全世界と争う上で、新しい技術革新や生産性向上への取り組みを労使で一緒に議論し、日本全体の生産性を高め、パイを大きくしていくことが重要である」と挨拶をした。

自由討議では、多くの課題に対して労使一体で進む方向を定めることが必要であり、事業継続のための働き方改革・健康経営・ダイバシティ経営等の課題解決へのプロセスが異なるが、目指すところは労使共通である。但し、対応は各社の状況により、個別の対応であり、優先順位のつけ方も各社の事情によるところである。労使が適切な緊張関係の中で建設的な議論をすることは重要である。バブル崩壊後、付加価値総額が縮小する中で労働分配率が下がってきた。Society5.0や第4次産業革命などパラダイムを変え、付加価値を増大することが肝要である。日本の強みである現場力の継承の再構築が必要である。技能やスキルを社会的・経済的に評価する仕組みも必要である。などの意見が経営者協会から出された。

理事会

3月8日（金）17時30分から、富山電気ビル4階7号室で、金岡会長はじめ理事7名、幹事1名が出席して「理事会」を開催した。

議案（1）2019年度事業方針の件、（2）2019年度暫定予算の件、（3）新会員2社入会の件について審議し、議案はすべて全員異議なく承認・決定された。



幹事会

3月8日（金）16時30分から、富山電気ビル4階光の間で56名が出席して「幹事会」を開催した。金岡会長の挨拶の後、下記の報告を行った。

■2018年度事業報告と2019年度予算案報告

（1）2018年度事業報告

第73回定時総会は、5月23日に開催し、2017年度事業報告と財務諸表、県に提出する公益目的支出計画実施報告、2018年度事業計画と損益予算、理事の選任、会費暫定値下げの見直しについて審議し、承認された。

総会終了後、キリンホールディングス(株)取締役常務執行役員の三好敏也氏を招き、テーマを「キリンビールの働き方改革」と題して、講演会を行った。

理事会は、4月23日、5月23日、9月14日の3回と書面理事会を7月26日に開催した。

事業推進機関会議は、会長・副会長会議を11月9日に開催した。

会員懇談会は7月6日に西部地区、9月14日に富山地区、11月9日に東部地区、合わせて3回開催し、経済5団体合同の新春互礼会は1月4日に開催した。

広報活動の機関誌発行は、新春号を加え、7回の発行ならびに総会と地区会員懇談会での講演をまとめ、小冊子やホームページに掲載した。

調査活動である定期調査は7件、経営課題調査は2件実施した。この調査結果は、情報として会員企業様にペーパーおよびホームページで提供するとともに、マスコミからも報道してもらっている。

委員会活動について、武内総務交流委員会委員長、八十島人事・労務政策委員会委員長、松原教育委員会委員長、谷川品質管理委員会委員長、尾島環境委員会委員長、牧野経営企画・IT委員会委員長から報告があった。

（2）2018年度収支見通し報告

受取会費は会員増により、52.3百万円、事業収益



はオーダーメイド研修が減少したが、講座セミナーの受講者増で、予算比、2.5百万の44.0百万円、雑収益は、0.8百万円となり、経常収益は、97.0百万円を見込んでいる。これは、予算に対して約2.6百万円増となる。

一方、経常費用は103.8百万円で、予算に対して、1.9百万円の増になる。

この結果、評価損益等調整前当期経常増減額見込みは、▲6.8百万円となり、予算に対して、0.7百万円の収支改善となる。

（3）2019年度暫定予算案報告

受取会費は、会員数495社を前提として、55.8百万円を見込んでいる。昨年の総会で決定した通り、一般会費の値下げ率を現状の15%減から9.1%減とした結果、1口1万円として、受取会費を計算している。

次に、事業収益は、オーダーメイド研修の減少を講座セミナーの受講者数の増加で補うことで、事業収益は、42.8百万円の予算とした。また、雑収益は0.77百万円で予算を組んだ。

一方、経常費用は、職員給与の増や委員会の活動費増などに伴ない、105.0百万円の予算とした。引き続き経費削減を実施していく。

この結果、評価損益等調整前当期経常増減額は、▲6.4百万円となり、当期一般正味財産増減額も同額となる。

以上3議案について、報告した。

拡大政策会議

3月8日（金）15時30分から、富山電気ビル4階8号室で、金岡会長はじめ副会長を含めた理事4名、ならびに各委員会の委員長6名が出席して「拡大政策会議」を開催した。

金岡会長から挨拶と、会議開催について「副会長・理事と委員長を含めた拡大メンバーによる協会の活動と委員会活動の情報交換および意見交換の場とする」との説明後、各委員長と事務局から報告を行った。

(1) 2019年度委員会活動テーマ報告

事務局から委員会活動テーマの

「労働力人口減少時代における生産性向上」について、テーマ設定理由を踏まえ、テーマの根幹である生産性向上には、「ダイバーシティ経営」と「働き方改革」の2つが、活動テーマを支えるキーワードであると説明した。

(2) 2019年度事業計画報告

総務交流委員会、人事・労務政策委員会、教育委員会、品質管理委員会、環境委員会、経営企画・IT委員会の各委員長から、委員会作成の「2019年度事業計画」に基づき順次報告が行われ、全報告終了後、質疑応答や意見交換が行われた。



(3) 富山経協実績報告

事務局から2018年度4月～2月実績に基づく、会員数の推移や地区別・業種別・規模別の会員数集計および入会経過年数別会員数、入退会企業一覧等の会員分析の報告があった。続けて、委員会委員数、ブランド力、「会議、講座・見学会等」への参加者推移等の事業活動分析を報告した。

2019年2月9日～4月8日

	事業名	委員会名	開催日	場所	参加人数
会 議	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	2月14日(木)	コマツNTC(株)	15名
	教育委員会「定例委員会・教育制度見学会」	教育	2月27日(水)	YKK(株)	18名
	人事・労務政策委員会「定例委員会」	人事・労務政策	2月27日(水)	タワー111ビル 4Fギャラリー	20名
	経営企画・IT委員会「定例委員会」	経営企画・IT	3月1日(金)	富山経協・研修室	6名
	連合富山役員と富山経協役員との懇談会		3月8日(金)	富山電気ビル	8名
	拡大政策会議		3月8日(金)	富山電気ビル	11名
	幹事会		3月8日(金)	富山電気ビル	56名
	理事会		3月8日(金)	富山電気ビル	8名
見学会	環境委員会「県内企業見学会」	環境	3月15日(金)	北陸電力(株)富山新港火力発電所	24名
講 座 ・ セ ミ ナ ー	労働法実務講座(第4回)	人事・労務政策	2月13日(水)	富山経協・研修室	23名
	管理職マネジメント研修	教育	2月15日(金)～16日(土) 3月14日(木)	インテック大山研修センター 富山経協・研修室	21名
	職場リーダー実践コース	教育	2月19日(火)・20日(水)	富山経協・研修室	33名
	購買管理実践セミナー	教育	2月21日(木)	富山経協・研修室	33名
	企業(組織)における情報セキュリティ基礎セミナー	経営企画・IT	2月27日(水)	富山経協・研修室	20名
	次世代経営者育成セミナー ～ひと・しごとと未来創生塾～	経営企画・IT	3月1日(金)	タワー111ビル 21階	8名
	若手社員ステップアップコース	教育	3月5日(火)	富山経協・研修室	46名
	改善レベルアップセミナー(業務改善・応用編)	教育	3月6日(水)	富山経協・研修室	48名
	新入社員合同研修	教育	4月4日(木)	タワー111ビル スカイホール	180名

人事・労務政策委員会

■定例委員会

2月27日(水)、八十島委員長はじめ委員20名が出席して、タワー111ビル4Fギャラリーで開催した。

八十島委員長の挨拶後、富山県労働政策課の三國谷早恵主事が「大学等の学生向け及び富山県内企業の就職サポート概要」について説明した。その後、富山県イン

ターンシップ推進センターの松浦センター長が「インターンシップを活用した採用・就職サポート概要について」説明し、促進事業への参加を呼びかけた。

続いて大学等のキャリア・就職担当者13名と企業との混合で6グループに分かれ、採用・就職に関する情報・意見交換を行い、グループごとにディスカッションし



た内容について発表し、情報共有を図った。

教育委員会

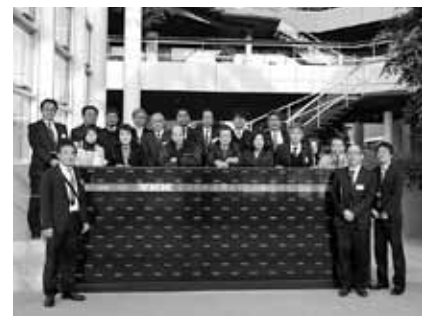
■教育制度見学会・定例委員会

2月27日(水)、教育制度見学会を松原委員長はじめ18名が参加してYKK(株)K-HALLで開催した。

YKK(株)の亀山執行役員人事部長より挨拶の後、会社概要について人事部企画・管理グループ人材開発企画チーム日比野氏より説明

を頂いた。その後、K-タウン・パッシブタウン・YKKセンターパークを見学した。続いて同社の教育制度の取り組みとして、階層別や職能別教育などについて説明を頂き、活発な意見交換を行った。

引き続き、定例委員会では松原委員長が挨拶し、新委員の紹介後、2019年度委員会活動について報告



を行った。

品質管理委員会

■定例委員会

2月14日(木)、谷川委員長はじめ委員15名が出席して、コマツNTC(株)で開催した。

定例委員会に先立ち、企業見学会を開催した。会社概要や品質管理の取り組みを説明の後、自動車のエンジンやトランスミッション等のパワーユニットの生産を担うトランスファーマシンの製造工程を見学。同社では世界トップレベルの製品・サービスを提供するため、技術者の育成と技術向上を目指した専用のトレーニングセン

ターで教育を行い、壊れない機械づくりと国際競争力のある製品づくりを実現することで、世界各国のカーメーカーよりベストサプライヤーとして数々の賞を受けている。

定例委員会では、2019年度年間事業活動計画について説明し、7月と2月の定例委員会では委員企業見学会を合わせて行うこと、9月と12月の定例委員会ではグループディスカッションと懇親会を合わせて行うことなどを確認した。また、講座・セミナー担当委員の



申込み状況について報告し、申込み多数の講座については事務局で調整することとした。

経営企画・IT委員会

■ 定例委員会

3月1日(金)、牧野委員長はじめ委員6名が出席して富山経協・研修室で開催した。

牧野委員長の挨拶後、2019年度の事業計画について審議を行い、活動方針と具体的活動項目の一部見直しを行った。年間スケジュールにおいても経営課題調査の追加

と次世代経営者育成セミナーの開催要領を一部変更した。また、本委員会の活動内容について、次年度の定例委員会の中で再検討していくことを確認した。

次回委員会は5月16日に開催する。



講座・セミナー

■ 次世代経営者育成セミナー

地域の中核企業の次世代経営者育成を目指し、昨年10月にスタートした「次世代経営者育成セミナー～ひと・しごと未来創生塾～」が最終日を迎え、3月1日(金)14時から、タワー111ビル21階で、塾生8名と来賓4名はじめ関係者30名が出席して、「卒塾式」を開催した。

共催のトーマツの塾長挨拶に続き、塾生全員のスピーチ発表が行われ、塾生が自身の置かれた立場に対峙し、自らの生き方や将来ビジョンに向けた決意と覚悟を熱く語った。

続いて、代表者4名による事業構想のプレゼンテーションがあり、ロジカルな市場分析、着実な成長プラン、工夫を凝らしたアイデア、ビジョンの浸透、常識を打ち破る発想など、自社の可能性にチャレンジする意欲に満ちた発表があった。

発表後、金岡会長から経営者の意識について、「先頭に立

つ強い当事者意識と、Practice makes perfectが大事である」との話を踏まえ、各塾生に卒塾証書が手渡された。

さらに、塾生に対する激励の言葉が、富山県商工労働部柿沢次長と経営企画・IT委員会牧野委員長からあった。塾生を代表して、協和紙工業(株)の太田常務取締役から4ヵ月間の研修期間中、他の塾生から熱い刺激を受けたこと、メンターの熱意など、周りの人たちの支えで卒塾できたことに対するお礼と感謝の言葉があった。

最後にトーマツ富山事務所長の陸田氏が閉会の挨拶をして、卒塾式を終了した。

終了後、同場所で、各塾生のブースを設け、事業構想の展示説明と出席者を交えた意見交換を行った。



階層別研修

2019年度 新入社員合同研修

4月4日（木）、50社180名の新入社員が参加し、タワー 111ビル スカイホールで開催した。

「社会人としての基本と企業人としての心構え」を学ぶことを狙いに、(公財)日本生産性本部 主任経営コンサルタント 筒井健太氏、(株)コトノハ代表 廣川奈美子氏、鳥崎社会保険労務士事務所 鳥崎裕美子氏、そして当協会 山下清胤副会長の4氏が講義・講話した。



第1部 学生から社会人へ・

職場のコミュニケーション・

指示命令の受け方と報告の仕方

筒井講師が、学校生活と社会人生活の違いを正しく理解することや、新たな環境での態度や行動について説明した。仕事に取り組む意識として、組織の目的と社会的責任を認識しなければならないとし、「お客様意識と高品質意識」・「利益意識」・「原価意識」・「安全意識」・「時間意識」の5つを意識しなければいけないとした。その上で、良い仕事とは「お客さまがよろこぶ仕事」「周囲がよろこぶ仕事」「工夫がおこなわれ続ける仕事」の3つであるとした。

次にコミュニケーションを行う際の心構え、上手なコミュニケーションのための基本、報告・連絡・相談の大切さと、指示命令の受け方として何を・いつまでに・どのくらいを最低限把握するなどの具体的な心構えを指導した。

第2部 社会人としてのマナー・

職場のマナー

廣川講師が、社会人として必要なマナーについて、第一印象の大切さ、身だしなみのポイントや挨拶の仕方などを講義した後、セルフチェックリストによる自己診断や受講者同士の実技訓練などを

行った。

鳥崎講師は、職場での基本的なマナー・ルールについて、会社のルールである服務規律を守ることの大切さ、職場の風紀・秩序を乱す行為は慎むことなど、企業人として法律に基づき守らなければならない職場での基本について講義した。

第3部 経営者講話

山下副会長が「新入社員の皆さんに」と題して講演した。

〈講話要旨〉

皆さんが入社した会社には、おそらく経営理念、創業精神、社是や目指す企業像があるはず。若い時はあまり気にしないと思うが、私は40歳位の時に「なるほど」と理解した。皆さんも自社の経営理念を確認してみてください。10年20年仕事をすると何か思い当たることあるはず。私も自社グループ内の企業再編を振り返り、主導した当時のトップについて、「思ったことをやり通す」姿勢に見習うところがあった。また、職場には先輩や上司がいて、時には賛同できないところもあるが、見習う部分も多々あるはず。仕事をする際、ネガティブにならず、ポジティブな気持ちで人を見て欲しい。そうすれば、自分の仕事に対

しても前向きになれる。自分の仕事に前向きに取り組めるような、目標となる上司や先輩を是非見つけてほしい。

社会人になるにあたって「信用」が大切だ。ビジネスパートナーとの信頼関係があれば、何かあった時にも、相談や協力ができる。人も会社もやはり、これが基本であると思う。また、是非、今日は、隣の人、違う会社の人とコミュニケーションをとってみたい。5年後、10年後に何か接点があるかもしれない。この場にいることを活かす。この場だけに限らないが、人との“接点”を大切にしていきたい。

第4部 まとめ・レポート作成

筒井講師が研修を総括し、受講者は本研修で学んだことを自社で活用するため、「実践活用シート」を作成し、終了した。



■第2回職場リーダー実践コース

2月19日(火)・20日(水)、33名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

講師の(公財)日本生産性本部主任経営コンサルタントの澤倉光仁氏は、企業や組織をとりまく環境の変化を踏まえ、リーダーシップとマネジメントの観点から係

長・主任の位置付けと果たすべき役割について講義した。

その中で、①目標の達成に導く実践的な展開方法(PDCA手法)、②部下の性格等に応じた育成の考え方・スキル、③部下育成技術としての交流分析やコーチング技法、④リーダーシップ発揮の要点と方法などについて説明し、対応



力を強化する必要があるとした。

■若手社員ステップアップコース

3月5日(火)、46名が参加して富山経協・研修室で開催した。

本研修は入社1年～3年程度の若手社員を対象に「自ら組織に働きかけ、組織の活性化に貢献できる」人材となるための心構え・知識・スキル、さらには後輩を指導するための「後輩指導力」を養うことをねらいに開催した。

(公財)日本生産性本部主任経営コンサルタントの筒井健太講師は、仕事とは一人の才能や強みを貢献に変えるプロセスであるとした上で、①仕事哲学、②リーダーシップ、③チーム力、④後輩指導力について、講義やグループディスカッションを通じて、受講者同士の経験を共有しながら学んだ。

最後に、受講者は本研修で学ん



だ事を自社で活用するために「実践活用シート」を作成し、個人目標を立て終了した。

参加者NOTES

「若手社員ステップアップコース」
を受講して

塩谷建設株式会社
建築部

越後 正太



私は入社して数年間は自分の事だけを考えていて、会社そして仕事とはという所は全くと言っていい程考えておりませんでした。経験を積んで周囲の環境も変化していく中で、仕事の本質という事を考え始めるようになりました。試行錯誤している最中に今回講義を受講させて頂き、様々な価値観や知識を得ることが出来ました。

講義では、仕事に対する思いや、リーダーシップの本質・チームの大切さ・後輩の正しい指導方法を学びました。

リーダーシップを発揮するには信頼や正しい方向へ導く力が必要になると教えて頂きました。その

為に私は「自主性」と「協調性」を出せる人間となり、発揮するまでのプロセスを大事にしていくことを第一の目標としました。

チームとは、目的の向かい、達成すべき目標を「共有」し、他のメンバーの仕事を視野に入れながら自分の仕事を確実にやる正しいチームワークの下、互いを尊重・信頼しながら成果の出せるチームが強いチームだと学びました。

後輩指導力では相手の人格意識を尊重して「指導」という情報提供が大事だと学びました。褒めることで強みを強化し、叱ることで成長させる。この2つを使い分け、後輩社員そして自分も共に『仕事

の本質』に向けて軌道修正することを心掛けて行きたいと思えます。

『仕事の本質』は「お客様に喜んで頂ける価値」と言ってしまうのが簡単です。私もこの一言を理想に仕事をしてきましたが、その喜びといえる価値に辿りつくまでが重要だと講義で教えて頂きました。一人一人ではその価値を出すことは出来ません。一人一人が自分の目標に向かうため才能や強みを生かし、工夫することで会社の能力は向上し、その能力を貢献に変えることで「喜んで頂ける価値」の出せる仕事に辿り着く。そう考える事が出来ました。

会社がそういった環境になる為、そして維持できる為に今回の講義で学んだ事を生かし、自分を含め周囲のみんなが成長できる環境を創り、チームそして組織の力に変えて行きたいと思えます。

共 通

■企業(組織)における

情報セキュリティ基礎セミナー

2月27日(水)、20名が参加して富山経協・研修室で開催した。

(株)よしだまこと事務所代表の吉田誠氏が、①中小企業におけるセキュリティ事例、②情報セキュリティ10大脅威、③中小企業の情報セキュリティ対策について説

明。具体的な対策として、独立行政法人情報処理推進機構が作成したチェックシートを用いて自社のセキュリティレベルを確認し、現状に応じたセキュリティ対策の進め方について検討することや、同機構が作成したドラマ形式の動画も紹介し、従業員向けのセキュリティ対策の一助となることも解説



した。

■改善レベルアップセミナー

(業務改善・応用編)

3月6日(木)、48名が参加して富山経協・研修室で開催した。

この講座は、10月に開催した「改善力養成セミナー業務改善・基礎編～」に続く応用編で、改善活動を「指導・推進・牽引」するための具体的なノウハウについて検討し、改善活動の推進役・改善エキスパートを育成し、改善活動のレベルアップを実現するために実施している。

日本HR協会 KAIZEN 事業部

「創意とくふう」編集人 東澤文二講師は、手間をかけず、カネをかけず、知恵を出して「工夫」する改善が重要であり、改善のレベルアップのためには、「改善を積み重ねる連続改善」と「改善を組み合わせる複合改善」が有効であるとした。また、質疑応答形式で参加者が実際に企業の現場で抱えている問題・課題について、事例を交えて詳しいアドバイスが行われた。受講者が改善事例を書き出し、セミナー終了後に講師が取りまとめて後日、改善の定石集とし



てフィードバックした。受講者からは「身振り手振りを交えて、大変わかりやすかった」と好評の声が多く寄せられた。

労 務 管 理

■労働法実務講座(第4回)

2月13日(水)、「過労死等の防止のための対策に関する大綱の解説」をテーマに23名が参加して、富山経協・研修室で開催した。

第一芙蓉法律事務所の木下潮音弁護士は、働き方改革においても重要な課題となっている過労死等の防止対策に取り組むにあたり、過労死防止対策大綱の内容を理解することが重要であると指摘し、①過労死等防止対策推進法の概要、②過労死等の防止のための対

策に関する大綱の内容、③大綱で定められた数値目標、④「インターバル制度」の内容と過労死等防止の役割、⑤重点業種(過労死等が多く発生している又は長時間労働者が多いとの指摘がある職種・業種)への取り組み、⑥「職場におけるハラスメント」の予防・解決のための取り組みについて、大綱の見直しに参加した経験を踏まえて具体例を交えながら解説した。

受講者からは、過労死対策と働き方改革関連法とのつながりがよ



くわかった、適切な労働時間の管理を行う大切さを改めて実感したとの声が聞かれた。

購買管理

■ 購買管理実践セミナー

2月21日(木)、33名が参加して富山経協・研修室で開催した。

「求められる購買実務の方向性とその展開」について、(公財)日本生産性本部主席経営コンサルタントの藤本忠司氏は、外部環境が大きく変化して売上を伸ばすことが難しくなる中で、購買・調達部門に求められる役割は高度化・多様化しており、単なる調達を行う

だけの部門ではなく、生産性の向上、販売拡大に貢献する利益貢献部門となることが期待されているとした上で、調達機能の評価方法や調達改革を進める方法について、具体的な事例を交えて解説した。講義に加え、調達コスト削減のための適正価格を検討するワーク等も行い、購買・調達部門の役割の大きさを再認識した。



新会員の紹介

(50音順)

■ 株式会社 大江鉄工

所在地 滑川市追分 225
 代表者 代表取締役社長 大江 敏光
 設立 1970年(昭和45年)9月
 資本金 5,000万円
 従業員 49名(富山県内)
 事業内容 金属製品製造業

■ 株式会社 不二越コムサービス

所在地 富山市不二越本町1丁目1番1号
 代表者 代表取締役 佐藤 登
 設立 2004年(平成16年)2月
 資本金 1,000万円
 従業員 64名(富山県内)
 事業内容 その他の事業サービス業(受託業務)

■ 役職位の変更

北陸コカ・コーラボトリング株式会社

代表取締役会長 稲垣 晴彦(前:代表取締役社長)

■ 社名の変更

株式会社 SCREEN SPE ワークス

(前:株式会社 F A S S E)

会員の動き

(50音順)(敬称略)

■ 代表者の変更

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 富山支店

支店長 石川 能章(前:松下 守)

共栄火災海上保険株式会社 富山支店

支店長 栗岡 航己(前:藤 保美)

株式会社 高志インテック

代表取締役社長 本江 康浩(前:根岸幸博)

損害保険ジャパン日本興亜株式会社 富山支店

支店長 越川 誠(前:藤野 修)

となみの工業株式会社

取締役社長 二川 明德(前:萩野利夫)

国立大学法人 富山大学

学長 齋藤 滋(前:遠藤俊郎)

公立大学法人 富山県立大学

理事長 渋谷 克人(前:寺井幹男)

豊田通商株式会社北陸支店

支店長 岡野 雅貴(前:山内邦宏)

株式会社 富冷

代表取締役社長 曾根 豊(前:奥井 聡)

日本カーバイド工業株式会社

魚津・早月工場長 竹内 利二(前:新夕秀典)

日本海石油株式会社

取締役社長 細谷 義博(前:長田 篤)

丸栄運輸機工株式会社

取締役社長 高木 裕(前:高木光男)

YKK AP株式会社 黒部製造所

執行役員 阿部 浩司(旧:田原建治)

環境委員会

■県内企業見学会

3月15日(金)、江田副委員長はじめ24名が参加し「県内企業見学会」を開催した。

見学先の北陸電力(株)富山新港火力発電所は、3つの化石燃料(石炭・原油・LNG)を使用している国内初の火力発電所であり、同社最大出力の発電所でもある。今回、昨年11月から稼動しているコンバインドサイクル発電設備(LNG1号機)を主に見学した。

同社は北陸地域の豊かな水資源を活かした水力発電比率が全国でもトップクラスであり、本設備の

稼動で一層の電源多様化による「安定供給」や、CO₂排出量削減による「低炭素社会の実現」に向けて努めていた。

また、同発電所は住宅地付近に建設されていることから、大気汚染防止・水質汚濁防止・騒音や振動防止の対策など、周辺環境との調和を図る対策が多々講じられていた。

2016年より着工となった建設当時の話を伺い、最後に活発な質疑応答が行われた。



表紙の花
サクラ「ミヤビ」

(富山県中央植物園 中田政司)

2019年、今年のサクラ

中央植物園では、毎年その年にちなんだ話題を持つサクラを「今年の桜」として選定し、植物園友の会の植物画部会会員の方による「今年の桜」植物画を原画として絵葉書を作製し、県民の皆様提供しています。

今年は、5月に皇太子徳仁親王殿下が天皇陛下に即位されることから、1993年の皇太子殿下のご成婚を記念して、妃殿下となられた雅子様のお名前にちなんで命名されたミヤビ(雅)という栽培品種を選定しました。

ミヤビは埼玉県の苗木生産者の圃場で発見されたサクラで、カンヒザクラとソメイヨシノの交雑に由来するのではないかと考えられています。

ミヤビの特徴

ミヤビはソメイヨシノよりもやや早く、葉に先がけて濃いピンクの花が咲き、花着きも良いことからとても華やかな印象を受けます。

カンヒザクラを親とする栽培品種には、伊豆で発見され河津町の町の花となったカワヅザクラや、イギリスで作出されたオカメなど多数あり、どれも赤味の強い花をいち早く咲かせます。ミヤビは、花がやや小型で抱え咲きになり、がくや花の柄に毛が多いこと、がくの筒状部にいくびれがあること、がく片の先に丸みがあることなど独特の特徴があって、比較的簡単に見分けることができます。これらの特徴は、片親と推定されているソメイヨシノと共通するものです。



がく片の先は丸みがある

5月21日(火) 第74回 定時総会

一般社団法人 富山県経営者協会

15:00～15:30 定時総会 〈富山国際会議場 2階〉

15:50～17:50 講演会・パネルディスカッション 〈富山国際会議場 3階メインホール〉

演題 『企業価値と健康経営』 ～働きたくなる職場づくり～

講師：橋本明彩代氏（株）日本政策投資銀行 サステナビリティ企画部 健康経営格付主幹）

土肥誠太郎氏（三井化学(株) 健康管理室 室長 統括産業医）

平井 孝幸氏（株）ディー・エヌ・エー CHO室 室長代理）

コーディネーター：金岡 克己（当協会 会長：(株)インテック 取締役相談役）

18:00～19:30 懇親会 〈ANAクラウンプラザホテル富山 3階「鳳」〉

事業予定

2019年 4月16日～6月15日

詳しくはホームページ(<http://www.toyama-keikyo.jp/>)
「講座・セミナー案内」をご覧ください。

	開催日	時間	事業名	委員会名	場所
会 議	4月22日(月)	15:00～16:00	人事・労務政策委員会「幹事会」	人事・労務政策	タワー111ビル 3階会議室
	4月22日(月)	16:30～17:30	理事会		富山経協・研修室
	5月16日(木)	16:30～17:30	経営企画・IT委員会「定例委員会」	経営企画・IT	タワー111ビル 3階会議室
	5月21日(火)	15:00～19:30	定時総会・講演会・懇親会 上記「おしらせ」参照		富山国際会議場、 ANAクラウンプラザホテル富山
	5月21日(火)	15:35～15:45	理事会		富山国際会議場
	6月 7日(金)	15:00～16:20	環境委員会「県との情報交換」	環 境	富山経協・研修室
	6月 7日(金)	16:30～17:00	環境委員会「定例委員会」	環 境	富山経協・研修室
講 座 ・ セ ミ ナ ー	4月10日(水)・18日・25日(木) 5月 9日(木)	9:00～17:00	品質管理入門講座 <基礎編>	品質管理	富山経協・研修室
	4月19日(金)	9:30～16:30	人事・労務管理セミナー <第1回>	人事・労務政策	富山経協・研修室
	4月23日(火)・24日(水)	9:30～17:00	営業力基礎セミナー	教 育	富山経協・研修室
	5月10日(金)～11日(土)	9:00～17:00	管理職マネジメント研修	教 育	インテック大山研修センター
	5月14日(火)・15日(水)	9:30～16:30	職場リーダー基本コース【A日程】	教 育	富山経協・研修室
	5月16日(木)・17日(金)	9:30～16:30	職場リーダー基本コース【B日程】	教 育	富山経協・研修室
	5月23日(木) 6月 6日(木)	9:00～17:00	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	富山経協・研修室
	5月28日(火)	9:00～16:30	仕事の基本「報連相」セミナー	教 育	富山経協・研修室
	6月 4日(火)	9:30～16:30	好印象を与えるコミュニケーション力向上セミナー	教 育	富山経協・研修室
	6月11日(火)～12日(水)	9:00～16:30	ものづくりと現場改善実践セミナー	品質管理	インテック大山研修センター
6月13日(木)	13:30～16:00	労働法実務講座 <第1回>	人事・労務政策	富山経協・研修室	

「富山経協」vol.846

2019年(平成31年)4月号
2019年4月15日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0856 富山市牛島新町5番5号(タワー111ビル 1階)

TEL (076) 441-9588 FAX (076) 441-9952

ホームページ <http://www.toyama-keikyo.jp/>

Eメール info@toyama-keikyo.jp